

長浜市図書館基本計画（第2期）【最終案】

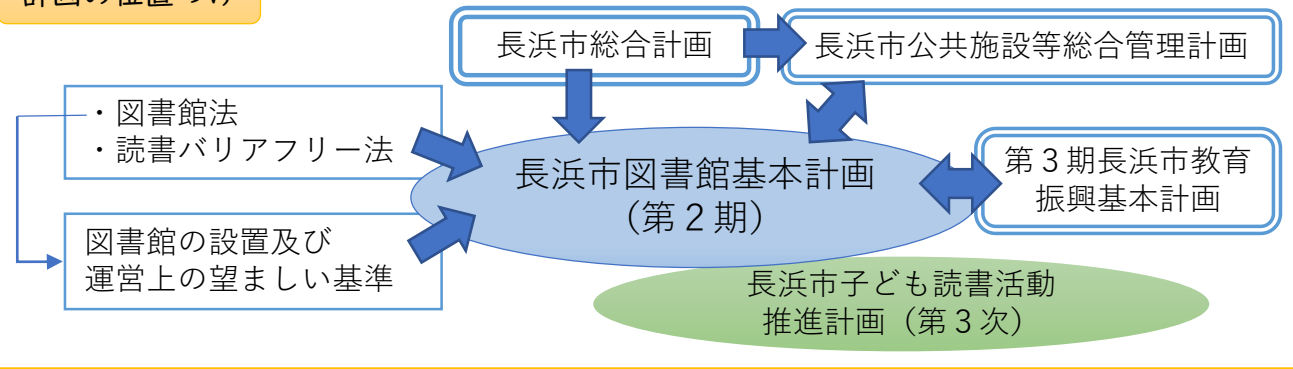
～本と人、人と人がつながる 学びと交流の拠点～

【概要版】

策定の趣旨

市全体の方向性や社会情勢の変化等を踏まえながら、本市がめざす図書館の姿を明らかにするとともに、その実現に向けて今後取り組むべき施策を計画的に進めるため策定するもの

計画の位置づけ



計画期間

令和4年1月～令和9年3月(約5年間)

図書館の現状

- 令和元年12月、長浜図書館が さざなみタウン（ながはま文化福祉プラザ）に移転
- 移転に合わせて、6館並列体制から中央図書館機能を持つ長浜図書館に資料と職員を集約し、長浜を要とする体制に転換
- 北部地域(木之本・余呉・西浅井)の図書室にサービスポイントを設けて全域サービスを実施
- 市内全域に資料や情報が迅速に届けられるよう図書館間の資料配送便を毎日運行する体制に強化

館・室	開架面積 (㎡)	蔵書冊数 (万冊)
長浜	1,646	29.6
浅井	936	13.7
びわ	1,254	17.1
虎姫	352	8.0
湖北	499	8.6
高月	584	17.3
木之本	73	1.2
余呉	489	2.7
西浅井	81	1.2

第2期計画の策定に向けて

◆図書館協議会の答申「中央図書館を要とした長浜市立図書館のあり方について」(平成30年12月)

- 長浜市のめざす新しい図書館像として、5つの提言と、その実現のために
- 図書館サービス拠点の再編
 - 各施設の役割、施設間の相互関係を明確化することの必要性が挙げられた。

▼現計画の検証から見える課題

- 全域サービスが可能になったが網羅しているとはまではいえず、北部地域でも実利用が広がっていない。超高齢社会が進む中で、交通弱者や子どもへのサービスがまだ不十分である。
- 長浜図書館以外の5館の位置づけ、役割や規模が明確でなく、効果的な運営が進んでいない。

★図書館利用動向調査 <長浜移転前後のR1・R2年度に来館者にアンケート調査を実施>

- 旧長浜地区以外の居住者による新長浜図書館の利用が増加した。
 - 移転前後と比較して、長浜以外の各館では、蔵書・図書館までの近さ・施設に関する内容で選ばれていることに変化はなかった。
- 長浜図書館の利用が増えるとともに、その他の館も身近にあることや蔵書など利用者の目的に合わせて、多様な使われ方をしていることがわかった。

基本方針（めざす姿）

資料提供の使命を果たすとともに、図書館に集まる人が交流し、ふれあいや心のつながりを大切にできる場所として、市民とともに成長する「本と人、人と人がつながる学びと交流の拠点」をめざす

基本目標

- 市民の役に立つ図書館をめざします**
資料の充実、レファレンス機能の強化、講座や展示の充実、電子化資料への対応
- だれもが利用できる図書館をめざします**
来館が困難な人、しょうがい者、子育て世代、YA世代、高齢者、外国語を母語とする人へのサービス
- 子どもが本と親しめる図書館をめざします**
年齢期に応じた子ども読書活動への取組み、園学校との連携、ボランティアとの連携、家庭への読書活動支援
- まちの魅力を発信し地域の文化的な拠点となる図書館をめざします**
地域資料の収集と提供、市民活動の成果を発表する場の提供、博物館と連携し地域文化の発信
- 市民とともにつくる図書館をめざします**
市民協働事業の推進、ボランティア活動の場の提供と支援、市民に信頼され親しみのある関係性

重点目標

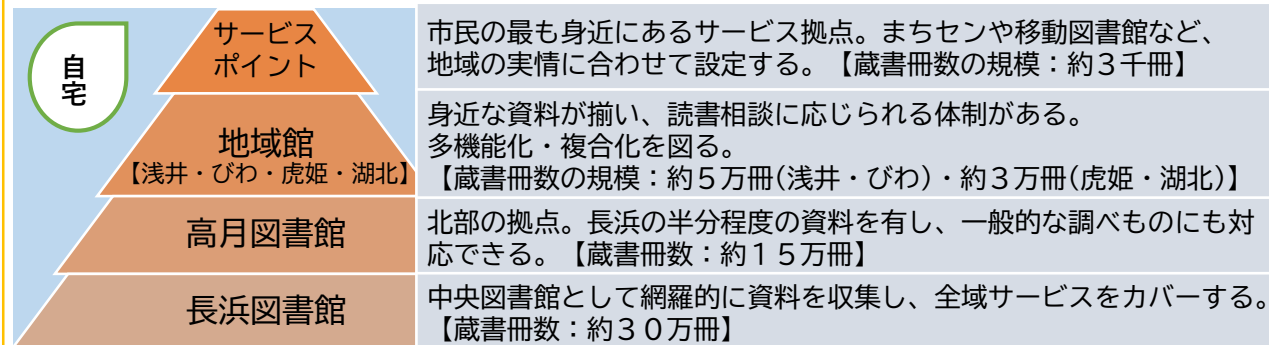
～市民により身近で生活に密着したサービスをきめ細かく提供できる体制を整える～

1. 市民の身近に図書館サービスがある体制づくり

- 市内全域で同じサービスを受けられる仕組みを構築
- 移動図書館の導入を検討

デジタルアーカイブ資料・アクセシブルな資料の導入、サービスポイントの拡充、宅配サービス、利便性向上のためのデジタル化 など

2. 全体の規模と各図書館の役割の見直し



3. 質の高い図書館サービスの継続的な提供

- ①職員の資質向上 ⇒ 専門性の高い司書を育成し、サービスの向上を図る
- ②管理運営体制を最適化 ⇒ 市が直営し、中央図書館を要とした効率的な管理運営の推進
- ③市民への情報提供を強化 ⇒ 図書館資源(資料・施設・人)の魅力を積極的に発信する

成果指標と評価

貸出冊数・レファレンス事例のHP公開件数・実利用者数など約20項目の指標について、毎年、内部評価と外部評価を行い公表する。さらに、PDCAサイクルで効果的・効率的に改善を図る。